

平成29年度第1回総合教育会議

- 1 日 時 平成29年4月21日（金曜日）
午前9時00分～午前10時00分
- 2 場 所 富士見市役所 1階 第2委員会室
- 3 出席者 市長 星野 光弘
教育長 山口 武士
委員 五十嵐 洋太
委員 大久保 春美
委員 小野寺 巧
委員 簗輪 菊雄
- 4 署名委員 教育長 山口 武士
委員 五十嵐 洋太
- 5 説明職員 教育部長 木村 久志
教育部長 北田 裕一
教育委員会副部長兼教育政策課長 林 みどり
教育政策課主査 馬場 規雄
- 6 事務局職員 秘書広報課長 森園 幸則
秘書広報課主事 柳 茉利
- 7 傍聴者 0人
- 8 議 事
(1) 大綱の策定について

○星野市長

おはようございます。本日は平成29年度第1回目の総合教育会議ということで、ご案内申し上げましたところ、教育委員の皆様には、ご出席いただきまして、ありがとうございます。

昨年度末に、県から義務教育指導課の大根田課長をお呼びしての勉強会を開催し、教育大綱策定に向けて、ご協力をいただきありがとうございました。今日はこの後、素案の提示をさせていただいて、ご議論いただきたいと考えております。

その前に、平成29年4月1日より、新教育長ということで、山口武士前教育部長に、本席にご出席を賜り、かつ富士見市の教育委員会を束ねる役ということで、皆様とこれから市の教育行政推進の為に頑張ってもらいますので、山口武士教育長を、どうぞよろしくお願い申し上げます。

また、副市長につきましても、任期満了に伴いまして、奥村前副市長から、浅井義明副市長に、議会同意をいただきまして、着任をしたところでございます。私も県議の時代に、川越県土整備事務所長、また県土整備部長ということでお世話になり、またその力量、人柄等も、この方ならという思いで、議会に諮ったところでございます。また、面会の機会をちゃんと作らせていただきますので、その折にはどうぞよろしくお願いいたします。

それでは今日は、皆様に素案ということでご議論をいただき、5月または6月にもう一度勉強会をさせていただく予定でございます。そうして皆様との議論を積み重ねながら、策定に向けて、ご協力を賜りたいと思います。

最後になりますが、教育委員会と私ども市長部局とが、力を合わせて、問題意識を共有して、富士見市の教育施策を進めていく有意義な会議になるよう、どうぞご協力をお願いいたします。

○森園秘書広報課長

ありがとうございました。

なお本日は、木村教育部長、北田教育部長、林教育政策課長、教育政策課馬場が出席をしております。

それでは、以後の進行につきましては、星野市長お願いいたします。

○星野市長

それでは、会議に移らせていただく前に、本日の会議録署名委員を指名させていただきます。会議録署名委員に、山口教育長、五十嵐委員を指名させていただきますので、よろしくお願いいたします。

冒頭申し上げましたとおり、前回に引き続きまして、富士見市教育大綱策定

に向けての議論でございます。これまでの総合教育会議、教育委員の皆様との懇談、そして勉強会を踏まえまして、素案を作成させていただきました。お手元にお配りさせていただいたものでございます。まずは事務局から説明をさせていただきますたいと思います。

○森園秘書広報課長

お手元の教育大綱（素案）をご覧くださいければと思います。大綱の構成につきましては、基本理念、基本方針に分けて構成をしております。基本理念につきましては、これまでの総合教育会議での委員の皆様の討議の内容におきまして、キーワードである「命」、「生きる力」、「人間尊重」、そういったものを意識して、素案を作成させていただきました。そして、基本方針につきましては、「人づくり」、「学校・家庭・地域の連携」、「教育環境の充実・支援」、そういった3つのキーワードを柱として、現在、教育委員会で見直し作業を進めております富士見市教育振興基本計画の内容、それからこれまでの委員の皆様の意見等を踏まえまして、方針を示させていただきました。

まず、教育大綱の基本理念について、説明をいたします。では、基本理念を読ませていただきます。「市民一人ひとりが自分自身と向き合い、尊い「いのち」に目を向けることは、今を生きている自分の存在を認め、他者の存在を尊重することにつながります。私たちは、人とのつながりの中で生きる力を養い、夢や希望をはぐくみながら、「いのち」を燃やして精一杯生きる人を育てます。」といたしました。

資料で、富士見市教育大綱の基本理念の補足説明というものがもう1枚あるのですが、こちらをご覧くださいければと思います。こちらは、基本理念の内容について、今までの総合教育会議、懇談会において、委員の皆様からいただいた内容や視点を記載したものでございます。まず、基本理念の最初の部分、上の3行については、キーワードである「人間尊重」を表現いたしました。①の「市民一人ひとりが」のところにつきましては、子どもも大人も含めたすべての市民が対象であることを表現しています。②の「自分自身と向き合い」以降については、自分自身の命や存在を大切に、そのことが、他者への優しさにも繋がるといったような「人間尊重」に繋がる理念等を明文化したものでございます。資料に6つほど示しておりますが、こちらにつきましては、委員の皆様のご意見や考え方等を整理して記載したものでございます。

続きまして、次の段落の「私たちは、人とのつながりの中で生きる力を養い」というところにつきましては、キーワードとして、「人づくり」「生きる力」を表現いたしました。①の「人とのつながりの中で」という部分につきましては、学校・家庭・地域の相互連携。そして、保護者からの学校への応援。教える側も学ぶ側もお互いに関わっていく中での育ち合い。そういったものをこちらに

明文化いたしました。②の「生きる力を養い」につきましては、人との絆を作る力を身に付けて、生き抜いていくということを明文化しています。そして最後の、「夢や希望をはぐくみながら、「いのち」を燃やして精一杯生きる人を育てます。」というところにつきましては、「自己実現」「いのち」というものを表しています。自らの人生を、夢や希望を持って切り拓いていく。また、困難なことがあっても精一杯生きていく人を育てるといったことを、この中に明文化いたしました。以上、基本理念において、市長が強い思いをお持ちであった「いのち」というキーワードを中心に、そこから「人間尊重」「人との繋がり」「生きる力」など、そういったキーワードを繋げて、自分も他者の命も大切にして、夢や希望を叶えるために、全力で生きて、心豊かな人を育てていくという、そういった理念を、たたき台として作成をいたしました。あくまでもたたき台でございますので、基本理念については、また後でお知らせをいたしますが、6月下旬に予定をしている「いのち」をテーマにした勉強会の後で、文言、内容も変わることはあると考えているところでございます。

続きまして、教育大綱の素案の基本方針についてですが、こちらは教育振興基本計画との関連もでございますので、教育政策課から説明をお願いしたいと思っております。

○林教育政策課長

それでは、基本方針の部分の説明をさせていただきます。昨年度の総合教育会議で市長から3つのキーワードが提示されたところでございます。それにつきまして、意見交換をし、いろいろなご発言をいただいた内容を整理し、またこれらをもとに、教育振興基本計画の施策との関連性なども鑑みまして、次のように明文化をさせていただいたものでございます。大きくは3つに分かれておりまして、1つ目は、「人づくり」。2つ目は、「学校・家庭・地域の連携」。3つ目は、「教育環境の充実」といったところでございます。

まず1つ目、「人づくり」に関する部分でございますが、これは主に子どもたちに向けたメッセージとしてまとめさせていただいております。その中の1つ目でございますが、「人との交流や感動体験を通した豊かな心の育成や、一人ひとりが可能性を發揮し未来を切り拓いていく人材育成をめざします」。これは、未来に向かって一人ひとりの可能性を最大限に發揮し、自らの人生を自分自身で切り拓いていくことや、将来を担う人材育成をすることの大切さ、そういったご発言をもとに明文化をしたものでございます。教育振興基本計画では、「学びあい、高めあい、夢と希望をはぐくむ教育の推進」の中の「人との交流や感動体験を通した豊かな心の育成」に関連があるものでございます。

2つ目、「自分を傷つけない、他人も傷つけない」という意識を高め、自他を尊

重する実践力を身につける教育を推進します」。これは、理念にもある、「自分の存在を認め、他者の存在を尊重する」と、重なる部分でもございます。先ほどの説明でもありましたように、これまでも富士見市の教育では、「人間尊重」を基本理念として、今日まで続けているものでございます。こういった大切な部分、普遍的な部分ですので、理念の他にも、敢えて触れて明文化させていただきました。教育振興基本計画の中では、「自分の人権を守り、他者の人権も守ろうとする意識や意欲、態度を育成する人権教育」。こちらと関連があるものでございます。

3つ目、「一人ひとりを大切にすることを推進し、確かな学力を育成するとともに、特別の支援を必要とする児童生徒への指導・支援を充実します」。これは、富士見市で育ち、社会へ羽ばたいていくための基礎、基本であるとか、学力、社会規範性、生き抜く力、いわゆる知・徳・体を身につける教育。それから、一人ひとりのニーズに応じた教育が受けられるということで、富士見市の特色でもあります市立の特別支援学校の存在を意識してのご意見、ご発言を明文化しています。教育振興基本計画では、「児童生徒一人ひとりに応じたきめ細やかな指導による学力の育成」に関連がございまして。

4つ目、「自らの命と安全を守るため、主体的に判断し行動できる児童生徒の育成と健やかな体の育成をめざした教育を推進します」。こちらは、かけがえのない一人ひとりの命の大切さを明文化しています。教育振興基本計画では、安全・防災教育の推進の中での、自らの健康と安全を守る資質、能力と、健やかな体の育成、そちらに関連性がございまして。これらの4つを取りまとめ、「人づくり」。サブタイトルとして、「生きる力を身につける教育を推進します」といった内容でまとめさせていただいております。

それから、基本方針の2、「学校・家庭・地域の連携」ですが、こちらは子どもたちを取り巻く環境に関してのメッセージを主としています。1つ目、「学校・家庭・地域が連携し、支えあい、一体となって推進する教育をめざします」。これは、自分の可能性を発揮する未来に向けて、学校・家庭・地域で支えあうといったことを明文化しています。教育振興基本計画では、「地域の教育力を生かし教育効果を高める学校教育の推進」の中の、学校・家庭・地域が一体となった教育活動の活性化に関連があります。

2つ目、「地域や家庭との連携による各学校の特色ある取組みを支援し、地域全体で子どもをはぐくむ環境づくりに努めます」。これは、学校はもとより、地域全体で育てていく。社会の一員であるという意識を高めるといったことを明文化しています。教育振興基本計画では、先ほどと同じですが、「地域の教育力を生かし教育効果を高める学校教育の推進」の中の、学校・家庭・地域が一体となった教育活動の活性化に繋がるものとなっております。

それから3つ目、「子ども自身が学ぶ力を養い、生きる力を高めるための子育てを支援するとともに、保護者同士の学びあいや交流の機会の充実に努めます」。これは、理念の中の「人とのつながりの中で生きる力を養うこと」。これを受けて、さらに具体化しているものと、子どもたちが社会の規範性や生き抜く力を主体的に身につけること、こういったご意見をもとに明文化したものでございます。教育振興基本計画では、「家庭・地域の教育力の向上」の中の、「家庭教育の支援」に関連がございました。それら3つをまとめたサブタイトルとしては、「学びあう地域社会をめざす教育を推進します」といった表現をしています。

基本方針の3、「教育環境の充実」。こちらは、子どもから大人まで、市民誰もが学びあえる環境に関してのメッセージとして取りまとめをしています。1つ目、「人と人との交流を通して育ちあえる機会や市民の多様な学習ニーズに対応した学習機会の提供など、生涯にわたって誰もが学べる環境整備に努めます」。こちらは、子どもから大人まで、すべての市民が切磋琢磨しながら人間性を高めることや、市民の皆さんが学びを持ち続けること、市が学びの機会を提供すること。こういったことを、明文化したものでございます。教育振興基本計画では、「生涯にわたる学習機会の提供と学びのネットワークの推進」の中の、「多様な学習機会の充実」、「生涯にわたる学習支援体制の充実」、「地域社会を創る学びあいの機会の充実」、こちらに関連があるものでございます。

2つ目、「学校研究や各種研修会を通して教職員の指導力向上に努めます」。これは、教職員の支援に対しての明文化となっています。教育振興基本計画では、「地域の教育力を生かし教育効果を高める学校教育の推進」の中の、「教職員の資質向上」。こちらに関連があるものでございます。

3つ目、「学校・公民館を日ごろから地域に開かれた施設として運営するとともに、災害時には地域の防災拠点となるよう施設整備に努めます」。これは、教育機関のハードウェアの面での支援を明文化したものでございます。教育振興基本計画では、学校施設の整備や、安全安心な地域拠点としての施設の運営、整備、これらに繋がるものとなっています。これらのサブタイトルとしては、「生涯にわたって学びあえる環境整備を推進します」といった表現をしています。以上でございます。

○星野市長

ありがとうございました。それでは、お示しさせていただきました素案について、ご意見、感想をお願いしたいと思います。いかがでしょうか。

○箕輪委員

教育大綱の素案が示されましたので、昨日送っていただいたんですが、ここ

から本格的な協議のスタートになると思いました。この会議で自分自身が何を話したかを忘れないためにも、発言する内容をメモしてきましたので、大綱の素案の上から順に従ってコメントをさせていただきたいと思えます。少し長くなりますが、よろしいでしょうか。

まずは、基本理念のところでも2点ほどあります。「いのちを燃やして」の燃やしてという表現は、個人的な連想になってしまうんですが、燃やすと燃え尽きてしまうと。燃え尽きてしまってもいいのかなと思ったんですね。これからの長寿社会では、人生に2つも3つもステージがあるだろうと。どのように燃やし続けるかが大切になってくるのではないかと思います。ここは、燃やすという表現よりは、「いのちを輝かせて」という表現のほうが良いと思えました。

2点目ですが、理念の補足説明に、すべての市民が対象であると述べられているのですが、富士見市の全市民が共通して他に誇れるものを持つことは非常に大切だと思います。それが何かは、議論していく必要があると思うんですが、私が7年前に教育委員になった時から、北海道にいる知人たちには、富士見市のコンセプトは「人間尊重」なんだということを話しておりますので、ここに掲げられたキーワードは非常に良いのではないかなというふうに思いました。

それから、基本方針ですが、1の「人づくり」のところでも3点あります。最初の項目に出てくる「人材育成」の人材という表現ですが、個人的にあまり好きではない言葉なんですね。教育の王道は、やはり人格形成だろうと思っておりますので、人材をやめて、補足説明のところでも3回出てくる「人を育てる」を用いて、「人の育成をめざします」か「児童生徒の育成をめざします」としたらどうでしょうか。

2点目は、3番目の項目で、「特別の支援」となっていますが、教育委員会の行政指導方針でも、「特別の」としてしまったのですが、やはり「特別な支援」のほうが耳慣れていると感じたので、直したほうが良いかなと思えました。

素案を読んで、生涯学習という言葉は出てきますが、生涯スポーツが無いと思えました。それをどこかに入れたいなと思って、一番下の教育環境の充実に入れればとも思ったのですが、過日の教育委員会の会議で、高校生の部活離れが激しいという話を聞きましたので、1の「人づくり」の4項目のところに次のように挿入してはどうだろうかと思えました。「健やかな体の育成をめざした教育により生涯スポーツ推進の基礎を作ります」としたらどうでしょうか。学校教育が、生涯スポーツに繋がるような、そういうイメージを持っていきたいなという思いです。

それから、「学校・家庭・地域の連携」で1点。3番目の項目、「子育てを支援する」ことに関してですが、表現はこれで良いと思えますが、支援の内容について突っ込んで議論をしていく必要があると思えます。子どもたちが同じス

ターゲットラインに立てる支援が必要だと思うんですが、端的に言うと、家庭の経済格差に沿って、全国学力調査の得点は決まるというデータが出ています。森元前教育長とも話したことがあるのですが、その辺は教育だけでは支援しきれない状況が横たわっていると思っています。具体的にどうしたら良いかは未知なんですが、大きな課題だと思います。

次に、「教育環境の充実」で3点。1番目の項目で、生涯学習についての表現ですが、学習は学んで終わりではなく、学んだことを地域に還元する必要があるし、すべきだろうと思います。表現はもっと練ったほうが良いと思いますが、「誰もが学べる環境整備に努めます」のところは、「誰もが学べ、学んだことを活かすことのできる環境整備に努めます」のようにしたら良いのではないかと思います。

それから2番目の項目で、「教職員の指導力向上」についてですが、表現としては指導力のイメージが出るような文言があったほうが良いと思います。例えば、いじめ問題に関しては、高いアンテナを先生方が張っていることだとか、目の前の子どもたちは生きて日々変化しますので、指導には要の時期があると思うんですよね。そういう場面を想定した時に、言われたらではなく、自主的に主体的に働きかける力だとか、学び続ける教師であってほしいと願っています。

3番目の項目ですが、「学校を地域に開かれた施設として運営する」ところですが、文章自体は良いんですが、ここでどのような内容をイメージするかというところで、私たちがもっと語り合って、共通認識を持っていく必要があるのではないかと思います。

最後に、補足説明の方になりますが、中段の②生きる力を養い、のところ、2行目に「力を身に着け」と「つけ」が付着の着になっていますので、気になったのでいろいろ調べてみました。私自身は「付」の方だと思っていたんですが、国語辞典は、「付」のほうが圧倒的に多かったです。インターネットで調べたら、「付」と「着」と両論がありましたので、ここは「素案」の表現はひらがなになっていますので、そのままにしたほうが無難かなという風に思いました。長くなりましたが、以上です。

○星野市長

ありがとうございました。では、順番によろしいでしょうか。

○五十嵐委員

先日のももクロのコンサートに参加した時に感じたことなんですが、素案を読んだ時に、「今を生きる自分の存在を認め、他者の存在を尊重することにつな

がります」という部分がすごくあてはまるなと思ったのが、ファンの人たちを見て、自分自身存在というのをしっかり持っていて、目的を共有していて、コンサート終わった後も、ゴミひとつ残っていないという。まさに、他者に迷惑をかけないように、尊重をし合って、彼らもすごくコンサートを楽しんでいるなというふうに感じました。共通の目的を持って、同じ仲間として掲げて、楽しんでいるな、生きているなというところを感じたので、市民に対して、目標、目的というものを明確に与えてあげられるような、そんな環境作りをしていけばいいのかなというふうに感じました。

○小野寺委員

まずは、事務局の皆様にお礼を申し上げたいと思います。何回か会議をしてきて、いろんなことを発言してきたわけですが、それをまとめながら、コンパクトで重く、かつわかりやすく、一気に読めるような形に素案として作っていただいたご苦勞に感謝をしたいと思います。基本理念のところなんです、2行目に、「今を生きている」という「今を」という言葉がありますので、2段目のどこかにですね、「今」を受けて、例えば「夢や希望」この前に、「未来への」などという言葉を入れると、今生きている自分自身を受け入れ、認めて、夢や希望を持って未来に生きていくという感じが出るのかなと思いました。

それから、「いのちを燃やして」のところは、簗輪委員と同じ意見です。

基本方針の1番、「人づくり」のところですが、2つ目の「自分を傷つけない、他人も傷つけない」という「～しない」という表現があるんですが、自分勝手な印象かもしれないんですが、「～しない」というと、なんとなく消極的な印象を受けるので、「～する」というもっと積極的な言葉遣いのほうが良いのかなと思いました。そうすると、「自分を大切にする」「尊重する」でも良いんですが、「～しない」よりは、「～する」のほうが、積極的な感じがするかなと思います。

「学校・家庭・地域の連携」の中で、3つ目の、「子ども自身が学ぶ力を養い、生きる力を高めるための子育て」の「子育て」は「子育て」じゃないかなと思ったりもしているんですが、これで良いんですか。

○林教育政策課長

現在の、教育振興基本計画の中でも、「子育て」という表現をさせていただいておまして、子どもが自ら主体的に生きる力を高めるといった定義をしております。受動的ではなくて、能動的に、自らがといった点で、「子育て」という言い方をしているところですが、ただ一般的にその考えが浸透しているかというのもございますので、この表現で良いかというかというのは検討させていただければと思います。

○小野寺委員

とすると、「子」が無い方がわかりやすいんじゃないかなと。「育ち」のほうが良いのではないかと、そんなことを考えています。

3番目のところに、私も、文化芸術とかスポーツのことが一切触れられていないので、何かそれに関係する項目が欲しいかなと感じました。以上です。

○山口教育長

全体の作りとして、言葉が精選されていて、シンプルになっていること。そして、具体的な方策をひとつでも載せていくと、全体のバランスが崩れていくので、概ね良い表現になっているという印象を持っています。

言葉についてなんですが、上からいくと、基本理念の、「私たちは、人とのつながりの中で生きる力を養い」の「養う」という言葉も、間違っていないかもしれないんですが、「私たちは～」と始まると、自らのことを言っているので、「培う」なのかなと。例えば、教師は子どもに、親が子どもに対してだと「養う」という言葉を使うんですが、「私たちは～」というふうになっているところから、結論ではなくて、少し考えてみたいなと思っています。

それから、私も、いのちは「燃やす」よりも「輝かせる」ほうが良いかなと思っています。教育振興基本計画でも、「一人ひとりが輝く」という表現を使っているところから、そのように思います。

基本方針の中で、2つ目、「学校・家庭・地域の連携」の中の、③についても、「子ども自身が学ぶ力を養い」とありますが、先ほどの話と合わせると、「培い」という表現もあるのかなと思います。

そして、基本方針の3つ目、「教育環境の充実」なんですが、「人と人との交流を通して育ちあえる」の「育ち」なんですが、先ほどの小野寺委員のお話の「子育ち」と同じなんですが、一般的な表現としてはあまり使われないのかなと思っていまして、「学びあえる」という表現ではどうかなと思っています。

②のところ、教職員の育成について柱建てしていただいていることは大変ありがたいなと思っています。星野市長も、頑張っている先生を応援していくんだとおっしゃってくださって、心強く思っています。文章表現としては、先ほど策輪委員もおっしゃったように、育てる目的や、どんな指導力をイメージしているかというのが、もう少しわかりやすくすると良いかなと。あまり具体的になりすぎると、今度はバランスを欠いてしまうので、例えば「学びの質を高める」というような、指導力を高めることによって学びの質を高めていくんだとか。それから、文章全体として、教職員全体を支援していくんだというように伝わるような文章が良いかなと。このままですと、ここは教育委員会の役割だったり、学校教育課の役割だったりということになるかなと思う

んですが、大綱ですので、市として取り組んでいくという表現としては、「教職員の指導力向上」という言葉よりも、「教職員を支援し」とか「教職員の質が高まるような仕組みを通して学びの質を高める」というような、まだ文章になっていないんですけど、考え方としてはそういう方向で考えていきたいなと思っています。

○大久保委員

印象なんですが、A4用紙1枚に納まっていて、とてもシンプルで良いなと思いました。できるだけ文字数を少なくして伝わるように、最後は精査して絞っていく必要があるんだろうなと考えています。

基本理念のところでは、同じように「燃やして」というのは、私くらいの年代だったら伝わると思うんですが、今の若い人たちには、この「いのちを燃やして」という表現は受け止めてもらえないんだろうなと思いました。簗輪さんがおっしゃるように、「輝かせて」のほうが良いと思いました。

あとは細かいところで、1番最後の「教育環境の充実」で、「学校研究や各種研修会を通して教職員の指導力向上に努めます」なんですが、教育環境は、学校もですし、地域もですし、幅広い教育環境を整えていかなければいけない。その中で、教職員も大切なんですが、地域力をどう高めていくかというのが課題ではないかなと思います。特に富士見市を見ていると、いろいろ活動は活発なんですが、また文化部門については、富士見市民大学など、一部の人たちの地域コーディネート力はあるように思うんですが、何かもっと良い環境を作り上げていこうという、柱を持った地域の指導者、リーダーたちが少ないのかなという印象を持っています。そういうところで、先ほど、生涯学習やスポーツなんかも含めて、地域力を高めていけるような人材を育てていくということが、結局は、基本方針、理念を実現化させるのに大切ではないかなと思っています。具体的な表現が無いのですが、地域をコーディネートする力を高めていけるような表現をお願いできればと思います。

○星野市長

ありがとうございます。私も発言をさせていただきます。

私も一度素案の提示を受けた時にも、事務局と少し議論をしたんですが、基本方針の2番と3番について、同じようなことを思っています。山口教育長からもあったように、具体論を入れると、というところについては私も少しブレーキがかかるのですが、入れたくなるんですね。なぜかという、「学校・家庭地域の連携」や「教育環境の充実」というタイトルについては普遍的であり、長年こうしたタイトルのもと、努力を積み重ねてきた、ここに問題、課題があ

るという項目だと思うんです。それで、具体的に2番で3つ、3番でも3つの丸があるわけですが、私としては、富士見らしきとか、富士見だからとか、富士見が今持っている力だとか、そういうものを「学校・家庭・地域の連携」の中で、より必要なんだという思いがあることから、具体策を言いたくなってしまうんですが、それはこれから教育振興基本計画に委ねるとして、それを導くような文言が欲しいなと感じています。先ほど、「教育環境の充実」について、先生の支援、先生方を助けること、良い授業をしてもらうために、市としてそうした環境を作ってあげること、ハードやソフトと表現したいと思いますが、そういったものを私としては、盛り込みたいと思っています。私も表現としては具体的なものはありませんが。それが、市長並びに市長部局としての3番についてのメッセージだと。

それから2番についても、「学校・家庭・地域の連携」ということで、私もPTA会長を何十年も前にやっていますが、ずっと言ってきたんですよね。さらには、この間の松戸市のような児童の見守りの当事者による痛ましい事件もあって、大変腹立たしいんですが。何日か前にも、町会の方とたまたま会ってそんな話になった時に、その方は男性なんですが、「俺たちも一生懸命やってるのに、疑われちゃうのかな。」とか。毎朝通学路に立って、せっかく子どもたちを見守っていただいているのにですね、そんなこともおっしゃっていました。

ということで、2番についても、ジレンマで具体的なことを書きたくなっちゃいますが、学校・家庭・地域を、富士見だったらこうまとめていくとか、こういう連携をさせていくとか、そういうものをやはり入れたらいいなと思っています。じゃあ表現してくださいと言われたら、まだうまく表現できませんが、私の想いとしては、2と3については、そうした表現をもって、富士見らしき、富士見の良いところ、富士見がこれから向かうべきところ、課題、問題を解決していくというような意気込みでも良いのかなと。また3番については、先生方を支援するというメッセージとして、より強いものを表現したいと思っています。私の想い、感想は、この2点でございます。

あとは、フリートキングでいかがでしょうか。基本理念につきましては、いろいろご指摘いただいた部分、まずは、「いのちを燃やして」を「いのちを輝かせて」という部分については、皆さんコンセンサスいただけたところだと思いますし、「今」で始めて、「未来へ」で受けていくというご指摘ですとか、基本理念については、ご指摘いただいたところが、皆さんもご同意いただけたような感触を得ました。これは、今日いただいたご意見をまとめていくということでもよろしいでしょうか。

3番の「教育環境の充実」なんですが、市長部局としては、学校や体育館や校庭や、それぞれの教材や備品にいたるまで手当てをしていくという役割があ

りますが、あまりそういう部分に関しては、含められてないですね。実はこの間、ときがわ町へ行政視察に行ってきました。関口町長さんが、学校の木質化、改修を行っていて、私が見たのはときがわ中学校だったんですが、建物も40数年で、本郷中学校くらい経っていますが、綺麗でした。中も木質化を徹底的にやってらっしゃって、職員玄関から入ったんですが、靴箱の上もウッドブロックでデザインをされていました。廊下も材料は杉板だったりしているので、節目はいっぱいあるんですが、それは地元の材料を使っていますし、とても綺麗でした。また、塗装仕上げも、何年か前にやったものを見たわけですが、子どもたちがワックスがけを惜しまずやっていて、壁面も腰壁だけではなくて、窓の棧までおやりになっていたり、教室に入っても、床は木ということで、綺麗な塗装仕上げと、清掃も行き届いていました。それから、給食の配膳室があったところが、今は使っていないくて、ベンチと大きなテーブルがありまして、ちょっとしたカフェみたいなスペースがあるんですが、そこが子どもたちの憩いの場所になっているそうです。学校には似つかわしくないんですが、それがまた良いそうです。そこに子どもたちがたまっていて、廊下とはカウンターを隔てていて、温かさを感じました。ときがわ方式と文部科学省が言ってくれたと町長が言っていました。こうした木質化は地元の産業ということもあり、大変良い学校でした。これから本郷中学校、関沢小学校が改修に入るうえで、参考になりました。

○箕輪委員

実は6年前に、入間地区の研修で、ときがわ中学校に行くと、体育館のステージで練習しているところを上から見たんですよ。その2階の部分も木質化をしていました。

○大久保委員

ひとつ印象に残っているのは、木質化になってから、不登校が無くなったとおっしゃっていたんですね。それだけやはり、学校の居心地の良さの中で、友達同士が繋がっていくんだなと思いました。

○箕輪委員

それを受けて、針ヶ谷小学校が、部分的ではあるけども、木質化を行いました。すごく良い印象を受けますね。

○山口教育長

それ以降の、大規模改造工事をやっている学校は、基本的に一部木質化に取

り組んではいますね。去年の南畑小学校、鶴瀬小学校。その方針では進めていきたいと思っています。

○箕輪委員

もうふたつ良いでしょうか。先ほど山口教育長が提案した、「養い」を「培い」という言葉に変えるという点ですが、やはり「養い」だと対象物というのがついてくる言葉遣いなので、「培い」という表現のほうが良いと思いました。

それから文部科学省も、概ね5年という期間を提唱していて、いくつかの教育大綱を見たところでは、何年度から何年度ですという記載があるんですけども、これはむしろ、入れないほうが良い、期間を切捨てしないほうがスッキリしていて良いなと思いました。

○山口教育長

学校環境の整備について、市長からご提案いただいた中で、私も3番の中に含まれるかなという印象でサラッと読んでしまったんですが、よくよく読み返してみると、生涯学習を中心とした環境整備の色が強くなっているので、何か言葉を表現して、学校の教育環境の整備ということが表れるようにしていただけるとありがたいかなと改めて思いました。

○五十嵐委員

先日、大久保委員ともお話をさせていただいたんですが、富士見市内にも様々な団体があって、様々な活動を富士見市のために行っているんですが、学校・家庭・地域の連携という部分で、団体同士の連携というのがもっと取れば、市としてももっと良い方向に向かっていくのではないのかなと感じました。

○星野市長

目標や目的が違ってても、教育ということについてだったら、何か力が発揮できるとかですね。

では、今回このような形で、いったん素案をお示しさせていただき、皆様から、ご意見、ご指摘を頂戴いたしましたので、引き取らせていただいて、再度、修正をかけながら、次の議論で、立て直したものをお示しをするという形でよろしいでしょうか。7月から8月頃に予定をしております次回の総合教育会議でお示しできるよう、大綱案の作成をさせていただきたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

それでは、本日予定しておりました協議事項につきましては、これで終了いたします。事前に読み込みをいただきましての、委員の皆様の貴重なご意見、

ご発言ありがとうございました。9月の大綱策定に向け、引き続きご協力をお願い申し上げます。今日の会を閉じたいと思います。ありがとうございました。